

千葉支部 2021 年度第 2 回資格更新研修会 報告

2021 年 12 月 26 日(日)13 時~16 時 Zoom 配信によるオンライン研修会

テーマ「WISC-IVから WISC-Vへ」 講師 大六 一志 先生

今年度第 2 回の研修会も Zoom によるオンライン研修会となりました。今回もオンライン研修会 にともなう事前準備や参加者数の制約ことを考慮し、千葉支部会員向けとさせていただきます。参加者は千葉支部会員 58 名でした。

千葉支部では 2016 年度に「WISC-IV 知能検査の解釈と支援」について大六先生にご講演いただき、大変好評でした。今回の研修も、受付開始当日に申し込み数が定員に達してしまうほど、関心の高い研修テーマだったようです。大六先生には、年末最後の日曜日であることに加え、WISC-V 発売に重なり、かなりご多忙の時期だったと思いますが、ご快諾をいただき深く感謝申し上げます。Zoom による実施もあり制約のある中でしたが、大変わかりやすくお話をいただき、充実した研修の機会となりました。

今回の WISC-V への改訂は、定期的な改訂ということに加え、それぞれの検査ごとに検討するのではなく、CHC 理論に基づきメタ的に内容の見直しがなされました。理論やエビデンスに基づいて整理された一貫した知能因子に準拠して、検査を作成し、個々の問題についてその原因の解釈に活かせるものにしていこうとする流れを受けた改訂でもありました。

主な改訂内容として、CHC 理論で想定されている広域能力のうち、「流動性能力/推理」と「視覚処理」の 2 種類の能力を合わせた形で測定されていた WISC-IV の「知覚推理指標」が、理論に準拠し「流動性推理」と「視覚処理」へと分けられました。そのため、WISC-IV の 4 指標から 5 指標となり、これらが「主要指標」とされます。さらに、理論的に考えられる能力を加え、5 つの補助指標と 3 つの関連指標（これについては、少し時期を置いて出される予定）とで構成されることとなりました。

理論的な整理に伴い、「流動性推理」、「視覚処理」に対応するものなどを含め新しい下位検査が 8 つ（関連指標含む）加わり、「絵の完成」など 2 つが廃止され、FSIQ は 7 つの下位検査、各主要指標は 2 つの下位検査から産出できるように作られています。検査者が、ケースごとに必要な内容を選択して実施することが求められていきます。

また、これまで検査者の観察によっていた「積木模様」、「符号」、「記号探し」等のプロセス分析についても、部分点が用意されるなど数値化できるようにもなりました。

なお、今後、i-pad 版の発売も予定されているそうです。これにより、検査終了時には自動的に集計が完了していることとなります。被験者本人や保護者、関係者が、得られた情報を具体的に生活や学習に還元していけるよう、より納得のできる、わかりやすい説明をしていくことに、私たち臨床発達心理士が力を注いでいきたいものです。 (堀 彰人)